

生活支援機能を地域に

特別養護老人ホームや保育園を運営する社会福祉法人・愛生会（鹿角市十和田大湯）の理事長を務める。法人が持つ機能を地域全体へ提供することにより、「困難を抱える人たちの家事負担などを軽減して住みやすいまちにしたい」と語る。

3月に理事長就任

社会福祉法人・愛生会 村木宏成理事長（43）



なるなど、大規模事業所を維持することが難しくなり、「法人の価値を自ら創出しなければ生き残れない時代になった」ためだ。

今年4月には、新たに児童発達支援や放課後等デイサービスなど3事業を始めた。特性のある子どもを支援する事業を一つのパッケージとして、「より需要の高い首都圏などで事業展開することにも視野に入れている」と話す。

十和田大湯地区を中心に7拠点14事業所があり、職員210人の指揮を執る。特養の栄養士が作った弁当を販売・宅配するサービスや、特養の利用者向け洗濯機能を地

域と共有する洗濯代行サービスなども展開する。運営する入所施設には「食べる」「寝る」「洗濯」「入浴」などの生活機能がある。「これらを一般市民にも提供すれば、高齢者や子育て世帯の生活を支えることができ、仕事を生み出すことにもつながる」と考えた。背景には人口減少という地域課題がある。少子化の影響で運営する保育園の一つが閉園・統合に

地元で生まれ育ち、都内の大学卒業後に学習塾勤務を経て2006年に愛生会入職。理事長には3月25日付で就任した。

愛読書は森信三の「修身教授録」。

園の一つが閉園・統合に

（高橋秀明）

経済
ナビ